

《例題1》

《解答例》

L B R
* 1

出典…『蜻蛉日記』／フェリス女学院大学・文 96年改題

現代語訳……(五月) 十日になった。今日、大夫にことづけて(夫から) 手紙が来た。「体調の悪いことはかりがあり続け、(御無沙汰して) 気が

がかりなほどになってしまったが、どうしていますか」などと(書いて) ある。返事は、翌日(大夫が夫の家へ) 行くののことづける。「昨日は、折り返し御返事を申し上げなければと思いましたが、この(「心」大夫がそちらに行く) ついででもなければ、(御連絡を) 申し上げるにも不都合な気になってしまいましたので(今日お返事を差し上げることになりました)。「どうしているか」とおっしゃられているのは、何のことでしょう。(何も「心配には及びません。それにしても来てくだらないあなたが「心配になるのは、」なにもかももつともだと思っております。何か月もお出でくだらないので、かえって(いつお出でになるかと心配することもなく)、たいそう気楽になってしまいました。『風だに寒く』と申し上げると、(あなたを『見え来ぬ人』にしてしまうことになるので) 縁起でもないでしょうか」と書いた。日が暮れてから、(大夫は夫の許から帰って来て)「(父上は) 賀茂の泉にお出かけでしたので、御返事も申し上げないで帰って来ました」と言う。「結構なことね」と、心にもなく思わず口にした。

この頃、雲の様子が落着かなくて、どうかすると、田植えをする女の裳の裾が(五月雨に濡れているだろうと) 思いやられる。ほととぎすの声も聞かない。(私のように) 物思いしがちな(「心に悩みのある」人は寝るに寝られないというのに、(私は) 妙に気持ちよく眠れるから(ほととぎすの声にも気づかないの) であるだろう。誰もかれもが、「先日の夜、聞いた」「今日の夜明け前にも鳴いていた」と言うのを、人もあろうに、この(つらくて眠れないはずの) 私がまだ(聞いていない) と言うようなことも、たいそう恥ずかしいので、物も言わないで、心の中で(ふと) 思われたように、

われぞけに……私は本当にぐっすりと寝ているのだろうか、そんなことはない。(私の思いがそのまま) ほととぎすの物思いのまさる声となっているのだろう

と、ひそかに口ずさまれたのだった。

《解答例》

問
1

1
ア

2
ア

3
I

4
ア

問 2

D

問 3

大夫が兼家の所へ行くついで〔13字・解答例〕

問 4

才

問5

A 翌日大夫が夫の所へ行くのにことづける。

H 心に悩みごとのある人は寝るに寝られないというのに

問 6

工

問 7

④

《例題2》

《解答例》

L B R
* 1

出典…『成尋阿闍梨母集』／東京大学・前期日程 00年

現代語訳……その翌朝、(成尋が)手紙をおよこしになった。つらいけれども、急いで見ると、「夜の間(「昨夜」は、いかがだったでしょうか。昨日のお便りを見て、一晩中涙も止まらないでおりました」とある。(その手紙を)見ると、(つらさに)文字もはつきりと読めない。涙の(乾く)暇もなく、(その)日を過す。

やっとのことで起き上がって見ると、仁和寺の前に、梅の木に(花が)こぼれるほどに咲いている。(私の)いる部屋などは、すべて(前もって)整えられていた。(悲しみのあまり)思慮分別もない状態で、どちらが西の方かもわからない。目も(涙で)一面に霧がかかったようで、夢のような感じがして暮らしていた、その翌朝、京から人がやって来て、「今夜(「昨夜」)の夜中のうちに(成尋様は)お出ましになりました」と言う。起き上がることもできず、何とも言いようがないほど悲しい。

また次の朝に(成尋から)手紙が来る。目もあけることができないけれど、見ると、「母上(「母上」)のところに)伺おうと思っておりますが、夜中ぐらいいに(この八幡に)やってまいりましたので、何度思っても(残念なことです)あわただしくて(母上)のところに伺えませんでした」と書いてある。目の前も真っ暗になって心も乱れているところに、(成尋の)見送りの「見送りに行っている」人々が集まって(私を)慰めてくれるが、(やはり成尋に会えないことが)ひどく悲しく思われる。「すぐに、八幡と申す所で船にお乗りになりました」と聞くにつけても、(成尋に会えない)もどかしさは何とも言いようがない。

船出する……(成尋が)船出する淀川の神も、(川の水が深いように)(私の成尋に対する)浅くない心(「深く心配している心」)を汲

んで、(旅の空にある成尋を)守りつつけてほしい
と泣きながら思われる。

「あきれたことに、(私に)会うまいと思っていらいちゃった(成尋の)心なのだなあ。あきれたことだ」と、つらいことをばかり思ってたので、また一方では、「この人(「成尋」)が、本当にやろうとお思いになるようなことに反対するまい」などと

思っていたことが、阿闍梨（の考え）に従って、このようなこと（「渡唐」^{*}）に対しても（私が）ひどく泣いて妨げずに終わってしまった（ことが）、この数日が経つにつれて残念に（思われ）、（成尋の）手をつかまえてでも、座りこんで（「行かせないで」）いるのがよかった」と後悔され、涙ばかりが目にあふれて、何も見ることができないので、
しひて行く……（悲しむ私を振り捨てて成尋が）あえて旅立つ船路を惜しむ（私と成尋の）お別れの路に、（私は成尋を引き止められな
かっただけでなく、自分の）涙までもとどめることができないなあ

^{*} 訳注 渡唐＝実際に成尋が行ったのは唐ではなく宋だが、問題のリード文に「唐土」とあるので、訳文では「唐」を使った。解答も同様。

《解答例》

問1 ア 悲しみのあまり思慮分別もない状態で、どちらが西の方かもわからない。

ウ 子を心配する私の深い心を汲んで、旅立つ成尋を守りつづけてほしい。

エ あされたことに、私に会うまいと思っていらっしゃった成尋の心なのだなあ。

オ 成尋が本当にやろうとお思になるようなことに反対するまい

問2 私は夜中ぐらいにこの八幡にやって参りましたので、どうにもこうにもあわただしくて、母上のところには伺えませんでした。

問3 成尋が唐土へ出立するのを、ひどく泣いても思いとどまらせればよかったと、日が経つにつれて後悔がつのる心情。

／成尋の渡唐を、泣き叫んでも止めなかったことに対して、目を追うにしたがってますます後悔の念が強くなっている心情。

〔別解例〕

《例題3》

《解答例》

L B R
* 1

出典…『堤中納言物語』『はいずみ』の冒頭／東京大学・前期日程 93年

現代語訳……下京付近に、身分が賤しくはない（相当な地位の）男が、（経済的に不自由で）暮らし向きも思いのままにならぬ女を愛して（夫婦として暮らして）、数年来経つが、（男は）懇意な人の所へ出入りしていた間に、（その）娘にも想いを懸けて、ひそかに通い続けた。（新しい愛人の方が）目新しかったせいであろうか、もともとの妻よりは愛着も深く感じられて、人目もはばからずに通（うようにな）ったので、（相手の）親が聞きつけて、「長年連れ添った妻を持っていらっしやる（人だ）が、（こうなっては）仕方がない」と言って、（娘との仲を）公認して（自分の娘のところへ通って）暮らすようにさせる。

もとの妻は（これを）聞いて、「今は（もう、あの人の仲も）おわりのようだ。（あの人を今までどおり）通わせて（おく）など（ということ）も、（向（こう）の親が）万が一にもそうさせてはおかないだろう」と思いをめぐらせる。「身を寄せるのに適当な所でもあればいいのだが。（あの人）冷たくなってしまわないうちに、（自分から）なんとか出ていこう」と思う。しかし、それにふさわしい（行くあてになる）所もない。

新しい女の両親などは、男の気も構わず言うことには、「（娘は）妻なども持たない人で、是非にと望んだ人にめあわせるのがあたりまえなのに、こうして（私たちの）願いでもない形で（あなたが）通い始めておしまいになったのを、残念に思うけれども、（愚痴を）言っても無益なので、こうしてお通わせ申し上げはするのに、世間の人々は、『妻を（自分の家にちゃんと）住まわせておいてになる人を（娘の婿に迎えるなんて、ねえ）。（娘さんを）愛していると、そんなふう（口では）言っても、（所詮は）家に住まわせてある妻の方をこそ、（男は）大事に思うのであらうのに』などと言うにつけても、（親としては）心配でならない。まことに、（世間の口も）もっともなこと（でございますよ）などと言ったので、男は「（私は）とるに足りない者ではございますが、（娘さんを愛する）気持ちだけは、（決して私に）勝っている人はいないでしょうと思っている（『誰にも負けないだろうと思っています』）。あちら（私の家）には（娘さんを迎えとって）お移し申しあげないのを、いい加減（私の気持ちから）とお疑いならば、早速にもお移し申しあげよう。まことに心外（でございます）と言つと、（娘の）親は、「（せめて）その（お言葉の）ようにだけでも（早速実

行)してください」と、強硬に要求して言うので、男は、「ああ、あれ〔Ⅱ家にいる妻〕もどこへ追いやろうかしら」と思われて、心の中では(もともとの妻を)かわいそうに思うのだが、新しい妻の方が大切なので、「これこれしかじかと打ち明けて、(もともとの妻がどう反応するか)様子を見届けよう」と考えて、もとの妻の所へと帰って行った。

《解答例》

問1 ア こっそりと新しい女のもとへ通い続けた。

イ 長年連れ添った妻を持つておられる人だが、仕方がない。

問2 世間の人が言うとおり、男は家に置いたもとの妻を大切にし、娘は粗末にされるだろうということ。

問3 親としてはせめて、娘を男の家に迎え取って妻としてあるべき遇し方をしてもらいたいということ。

問4 家にいるもとの妻も、どこへ行かせたらよいのだろうか。